

熊本市立阿蘇中央高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標
阿蘇の大自然のもと、互いに切磋琢磨し、素直な心と豊かな人間性を養い、幅広い知識と教養を身に付け、将来を担う高い資質と誇りを持った人材を育成する。 また、校舎制高校の特性を最大限活かした教育活動を実践し、両校舎に学ぶ生徒が互いに認め合い高め合いながら、母校愛、郷土愛の醸成を図る。

2 本年度の重点目標
ア 新たな伝統づくり (ア) 両校舎の伝統理解と母校愛と郷土愛の涵養 (イ) 両校舎間の特性を生かした教育実践と情報共有の推進 (ウ) 学校行事や部活動の充実と円滑な運営 (エ) 保護者会活動の発展と充実への積極的な支援 イ 生徒の夢の実現に向けた、徹底した進路保障 (ア) 自分自身の生活を振り返り、自ら考え、行動を律する生徒の育成 ・元氣なあいさつ、清楚な身なり、正しい言葉遣い (イ) 基礎基本の確かな定着と、生徒が主体的に考える授業づくり ・公開授業の積極的実践、相互授業参観の推進（授業力の向上） (ウ) 進路情報の収集・提供と面接指導の充実 (エ) 行事、インターンシップ・ボランティア活動等の体験活動への積極的参加 (オ) 総合選択制の円滑な実施 ウ 信頼される学校づくりへの取組 (ア) 地域社会に理解される学校作りの推進 (イ) 積極的な広報活動の展開と内容の充実 (ウ) 地元中学校への訪問による情報の共有と連携の強化 (エ) ボランティア活動の実施による地域社会への貢献

3 自己評価総括表					評価	成果と課題
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策		
大項目	小項目					
学校経営	自ら考え、主体的組織的に行動する教職員	各教育活動の工夫及び改善	働き方改革に向けて業務改善を行っている。	・目指す生徒像を踏まえて既存の行事要項や資料を点検し、修正を行っている。	B	アクティブラーニングでの授業展開やICTを活用したわかりやすい授業に取り組んでいるが、新規設備の充実が不足している。
		教職員としての指導力及び資質の向上	各校務分掌におけるOJTに積極的に取り組む。	・各主任主事と連携し業務分担と業務遂行を工夫する。	B	各部会や教科会を効率よく実施し、互いに協力して業務を遂行できているが、仕事量に偏りがあると指摘があり、次年度に向けて検討する。
	両校舎の連携	両校舎間の教職員の融和	両校舎合同の学年会、教科会、部会を学期に1回以上開催する。	・各主任主事が日程の調整及び連絡体制を確立する。	B	長期休業前後の合同運営委員会で各部・各科の次学期に向けた打合せを行った。また、両校舎の主任同士で密に連絡を取り業務を進めた。
		生徒の交流行事の充実	2つの校舎を持つ学校として生徒の心の交流を図る行事を充実させる。	・教職員間及び生徒間で協働の学校行事づくりを行う。	B	体育祭、文化祭は、両校舎の生徒の学習情報交換の場として、生徒、職員の心の交流を図ることができ、大変効果的であった。
	地域との連携	地域貢献事業やボランティア活動の推進	各学科や多くの生徒が年1回以上の地域貢献を行う。	・地域の関係機関との連携やボランティア活動の啓発を行う。	B	クラス役員にボランティア係が置き、担当教師から情報が随時発信されたため、地域の行事やボランティア活動へ積極的に参加できた。
		教育活動の情報発信	教育活動の成果を積極的に広報する。	・ホームページ等による広報を充実させる。 ・市広報や報道機関への情報提供を行う。	B	ホームページの更新は阿蘇清峰校舎では積極的に行われた。県や地域の広報誌にも情報提供できた。

学力向上	授業の充実	「分かる」授業の構築	基礎基本事項をより理解させるために、授業の相互評価を行う。	・教務部が授業の相互評価を立案し、学期に1回行う。 ・教科会で教材検討を行う	B	スキルアップ週間を年3回設け、授業力向上に努めた。I C Tを活用した授業や能動的学習に重点を置いた教材の工夫も見られた。
	基礎学力の定着と学習習慣の確立	自宅学習の確立	自宅学習時間の確保、定着のための手立てを講じている。	・自宅学習での状況把握を行う。	B	自学の習慣づくりのために家庭学習用の課題配付や宅学習時間調査を続けている。次年度からは、1・2年生は朝の自学時間を設定する方向で検討中である。
		個に応じた指導の充実	個別指導の実施と課題提出を徹底させる。	・習熟度に応じた課題を提供し提出された課題の点検と返却を行う。	A	習熟度に違いが大きいのので今後も生徒の適性に合った個別指導や意欲を高める面談を実施していく。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の実現	生徒が希望する進路の実現	3年生全員の進路実現を達成する。	・3学年と進路指導部が連携し「進路開拓」「面接小論文指導の徹底」「二者・三者面談の充実」を行う。	A	1年生から進路意識を高めていくために、三者面談、大学・職場見学、進路調べ学習等を実施している。3年次には面接、小論文指導を繰り返し行い、進路保障に貢献できた。
		3年間を見通したキャリア教育の推進	望ましい職業観及び勤労観を涵養する。	・学年または学科がインターンシップを計画し事前事後指導を行う。 ・進路ガイダンスを活用する	B	各事業所での職場体験により貴重な体験ができ、生徒には好評であった。日程については、各学科や近隣中学校の事情があり、今後とも調整して実施する。進路ガイダンスも有意義であった。
			早い段階で進路目標を掲げさせる。	・ガイダンスや講演会を開催する。 ・保護者説明会を開き情報提供する。	B	ガイダンス等を計画通り行うことができた。「進路の手引き」の利用については、今後とも学年団と連携して啓発に努める
生徒指導	基本的生活習慣の確立	自らを律する生徒の育成	日頃から整容指導に力を入れている。	・二校舎間で指導の統一を図り、自ら整容を律することができるように継続指導を徹底する。	B	スマホに関係した人間関係のトラブルが多くなっており、使用上のマナーについて普段から啓発していく。服装・頭髪検査は生徒・保護者への丁寧な事前説明が必要になってきている。
		礼を重んじる生徒の育成	日頃から元気よくあいさつができるように指導している。	・生徒指導部が集会時の礼法を指導し徹底させる。 ・全職員が授業時のあいさつ指導や登校指導を行う。	B	登校指導や教科指導等の場面で、挨拶や整容面について徹底してきており、地域からも好印象で受け止められている。今後とも丁寧に継続して指導する。
	生徒会活動と部活動の活性化	行事への主体的参画	生徒会が主体的に学校行事の企画や提案を行うよう支援している。	・生徒会各委員会の定期的開催と活動の活性化を図る。 ・生徒会執行部への助言。 ・生徒主体の生徒総会実施。	A	生徒会を中心に定期的な委員会活動が実施されており、生徒の自主性を育てる取組が地道に行われている。体育祭や文化祭は生徒が主役となり自発的に活動する場面が多く見られた。
		大会やコンクール等への積極的出場	両校舎合同による参加機会の増加と、日常の活動の活性化を図る。	・両校舎顧問が連携し、積極的な指導を行う。(部顧問会を年に3回行う)	B	両校舎の職員が連携して、文化部門、体育部門ともに活動を熱心に支援しており、生徒の学校生活の充実に貢献している。その結果として、各種大会で優秀な成績を収めた。
人権教育推進	職員及び生徒の人権感覚の醸成	職員の人権教育研修の推進	職員が人権感覚を磨き、授業や生徒指導に活かす。	・校内外の研修に積極的に参加する。 ・幼小中学校を含めた地域の研修に参加する。	B	全職員による実践レポートに取り組み、地域の研修や課題別研修にも積極的に参加した。
		生徒の人権教育学習推進	生徒が人権感覚を身に付け普段の生活に活かす。	・人権教育推進委員会と各学年会が連携し、学期1回以上のLHRを実施する。	B	各学期に1回の人権LHRを実施するとともに、学期に1回の職員研修により、指導者の意識を高めることができた。

	「命を大切に する心」を育む 指導	自己肯定感と 他者受容の心 の育成	命を大切に、安 心、安全な学校生 活を送ることがで きるようにする。	・アンケート等により生徒 の実態把握をして指導。 ・命を大切にすることを育む 指導を人権特別支援教 育部と学年が連携し計 画的に進める。	B	いじめの実態調査のアンケ ートを行った結果、約10件 のいじめが確認できたので、 速やかに対応した。今後も 引き続き実態把握と早期解 決の対応を行う。
	特別な支 援を要す る生徒へ の支援	集団生活に適 応できる支援	支援を要する生徒 の理解を深め、個 に応じた指導を推 進する。	・個別の支援計画を作成し 情報を職員間で共有。 ・生徒サポート委員会を定 期的に開催し、具体的支 援を検討する。	B	生徒理解研修を学期に1回 開くことにより、職員の共通 理解を図ることができた。生 徒サポート委員会も定期的 に行い、個々の生徒の支援につ いて検討することができた。
いじ めの 防 止 等	いじめの 未然防止	いじめの発生 を未然に防ぐ	生徒が良好な人間 関係の中で学校生 活を送ることがで きるようにする。	・学年会と生徒サポート委 員会が連携し、生徒観察 、情報共有を行う。 ・教育相談部と生徒会が連 携し、いじめ防止のため の啓発活動を行う。	B	各学期に1回のいじめ防止 対策会議を開き、外部の専門 家を交えて情報交換をする ことにより、対策は十分でき た。また、いじめ未然防止の 指導を徹底するための校外 研修に積極的に参加した。
	いじめ発 生時の対 応	いじめが発生 した際の適切 かつ迅速な対 応	いじめが発生した 際の対応や解決策 について検討する	・いじめ防止対策委員会 で情報共有、実態把握を行 う。 ・トラブルや誤解があれば 解決に向けて、事例等を もとに具体的な組織的 対応策を検討する。	A	いじめ防止対策基本方針及 びいじめ防止対策マニユ アルなどを活用し、いじめの 原因や個々のいじめが起こつ たメカニズム、具体的な対応 、解決の糸口など、今後とも 組織的に対応していく。
保 健 安 全	環境教育 の推進	環境問題意識 の高揚	保健・美化・環境 委員会を中心に環 境問題を主体的に 取り組む。	・教職員と生徒が協力して 、環境美化コンクールを 実施する。	B	美化コンクールを教室以外 の場所も対象として生徒主 体で実施できた。今後、校内 美化の意識向上に向けて継 続して取り組む。
	教育環境 の保健安 全管理	保健安全管理 意識の高揚	安全点検後の必要 な改善を徹底させ る。	・定期的または日常の安全 点検を実施し、危険箇所 は早急に改善を図る。	A	職員で定期的に安全点検を 行い、問題があれば事務で早 急に対応した。校舎が古くな っているため、今後とも安全 点検は丁寧かつ迅速に行う。
専 門 教 科 の 推 進	商業・農業 ・福祉 の専門教 育活動の 推進	専門教育活動 の充実	学科の独自性を重 視した教育活動を 地域と連携し実践 する。	・地域の企業及び施設との 連携しインターンシップを行 う ・各種資格取得を推進する ・農業クラブ活動のより充 実を図る。	B	各学科の地域での活動を、報 道機関や阿蘇市の広報誌な どを通して広報することが できた。今後も積極的な情報 発信に努める。
	専門学科 の地域貢 献	商業・農業・ 福祉の特性を 活かした地域 貢献	地域や幼保小中学 校との連携を充実 させる。	・農業担い手の育成や商品 開発に取り組む。 ・体験学習として幼小中学 生と花いっぱい活動を行 う。 ・地域のイベントに積極的 に参加する。	B	野焼き、復興支援活動ボラン ティア、地域・学校花いっば い活動や地域イベント（成人 式、科学、文化、スポーツ等 ）に数多く参加し、生徒が主 体的に活動する体験を推進 できた。
学 校 改 革 の 取 組	校務改革 の取組	生徒と向き合 う時間の確保	S H R時に生徒と 向き合う時間を確 保している。	・週4回実施していた職員 朝会を、週3回に縮減す る。 ・HR担当が、教室で生徒 を迎えるよう心掛ける。	B	職員朝会は短時間でを行い、学 年の打合せ時間を十分取る ことができた。SHRでHR 担当が、生徒と向き合う時間 を確保することができた。
地 域 連 携	地域社会 に理解さ れる学校 づくり	学校と地域社 会の協力体制 の構築	防災型のコミュニ ティ・スクール作 りに取り組み地域の 安全・安心に貢献 する。	・地域との運営協議会を3 回実施し、避難所として の施設利用計画を作成 する。 ・阿蘇市と協定を締結する	B	学校運営協議会を実施し、災 害時の協力体制について検 討することができた。 阿蘇市との協定はまだでき ていない。

4 学校関係者評価

- 生徒数が減少しているが、来た生徒をしっかり育ててほしい。農業食品科とグリーン環境が一緒に授業するカリキュラムを考えてはどうか。
- 校舎が古くなっていること、校舎間の移動が大変なことを考えると、将来的には校舎を一つにするように検討してほしい。
- 両校舎合同で行った五岳祭、涌穂祭は多くの人で賑わい大変よかった。
- 福祉の現場では阿蘇地域の人材不足に直面している。受け皿作りに地域の施設が力を合わせて説明会を開くなどの取組を行っている。卒業後、地元で活躍してくれる人材を育ててほしい。
- 先生が保護者から尊敬をされるような学校にしてほしい。また、親が子供を大切に育て、子が親を尊敬する社会にしてほしい。
- 授業参観日を設定してもらい参観しやすくなった。授業を見ると生徒の様子がよくわかった。
- 以前は長年勤務する先生がいたが、最近はあまり聞かない。地域の特性があるので、腰を据えて仕事をする職員がいてよいと思う。
- 学校評議員会は個々の都合もあると思うが、様々な意見が聞けるように日程調整してほしい。

5 総合評価

- (1) 自己評価（職員アンケート）より
全体的には昨年の評価とほとんど変わらなかった。
本年度は、「地域連携」が新たに評価項目に加わったが、学校運営協議会をほぼ予定どおり行った。阿蘇清峰校舎では地域住民との避難訓練を行っており、生徒が家庭でも防災を話題にしていたが、阿蘇校舎では防災に関する啓発が今後必要である。
進路保障について職員の評価は高いが、生徒評価では進路決定に向けて積極的に行動している生徒は少な。1年次からの進路意識の高揚と自己教育力の育成が課題である。
生徒指導に関しては、両校舎の共通理解はできてきているが、さらにステップアップするために、生徒自身に考えさせながら指導することが求められている。
- (2) 学校関係者評価（生徒アンケート）より
全般的に良い評価となっているが、「進路指導室の利用」、「防災に関する啓発」がCとっており、1学年からの指導や啓発が課題である。インターンシップや学校行事、生徒指導については良い評価であり、生徒が落ち着いて学校生活を送っている様子が窺える。ところが、学校生活が充実している割合が高いが、生徒・保護者の「入学してよかった。」という項目は、B以上の評価ではあるがこの3年で徐々に悪くなっており、アンテナを高くして原因究明に努めたい。
- (3) 学校関係者評価（保護者アンケート）より
全般的に生徒の評価と同じ項目が良い評価になった。学校行事（体育祭、文化祭、クラスマッチなど）や部活動の充実、学校における生活指導（挨拶、時間の厳守、服装、頭髪）、「阿蘇中央高校に子どもを入学させてよかった」という項目はAとなった。学校の指導に対して一定の評価を頂いているが、Dと評価された方もあり、疑問に思われたことは率直にご相談いただきながら、生徒の育成に努めたい。
- (4) アンケートから見える今後の方向性
 - ・個々の生徒の興味・関心を高め、自ら学び自ら考えて行動する生徒の育成に努めること。
 - ・地域の特性を生かした学校づくりを職員一丸となって取り組んでいくこと。
 - ・入学してくる生徒にしっかりと向き合い、阿蘇地域の高校生として地域に愛され、地域に密着した活動ができる生徒の育成を継続して取り組んでいくこと。

6 次年度への課題・改善方策

○普通科

- ・学習時間が少ない生徒に対する手立て・・・・・・・・各教科の課題等の検討
- ・基礎学力が定着していない生徒への指導・・・・・・・・生活習慣の改善に向けたアプローチ
- ・総合的な学習の時間等を利用した進路意識の高揚・・探求活動や発表会の充実

○農業食品科

- ・情報環境の整備の充実・・・・立体プロジェクターの導入
- ・4年制大学への進学・・・・学力ある生徒への啓発（将来の地域指導者の育成）
- ・農業クラブの活動・・・・農業クラブの対外研究発表会等への参加
- ・地域への広報活動・・・・広報誌や中学校職員との交流等

○グリーン環境科

- ・地域貢献活動及び広報活動・・・・演習林の木材を阿蘇神社に提供
- ・公務員志望への啓発と早期指導・・農業鑑定競技や資格への挑戦
- ・プロジェクト活動の推進・・・・1年次から参加
- ・草原維持活動の継続・・・・作業の安全確保及び茅の有効活用

○社会福祉科

- ・ニーズに応じた進路保障・・・・・・・・「保育福祉類型」の新設、徹底した国家試験対策
- ・専門性の向上と主体的な活動の促進・・介護技術コンテストへの取組
- ・地域から学ぶ環境づくり・・・・・・・・福祉施設での介護実習ボランティア活動の充実

○総合ビジネス科

- ・販売実習やボランティア活動の推進・・・・地域復興支援事業等の積極的な活用
- ・役所や商店街との連携及び情報の発信・・・・生徒の発想力を高める授業・講演会
- ・ICTコンテストやワープロ競技大会などへの積極的な参加